

## 管理課の裏ばなし

もう22年も経過したのだろうか……？

昭和49年5月に夕陽丘図書館が開館してから、管理課の守衛さんらと裏方の仕事をしてきた。上町台地に点在する寺院や名所に囲まれ「文化の香りがいっぱいの図書館」ではあったが、意外とハプニングも多かった。そんな感慨もこめて裏方話をひとつ、ふたつ。

図書館へは、不特定多数の方々が来館される。図書館の対応についての不満から激昂されたり、いろいろな事情もあるのだろうが、利用者どうしの口論から喧嘩に発展することもあった。管理課長を中心に両者の言い分を聞き調停に入るが、感情のもつれを制御するのは難しそうだ。

体調をくずされた利用者に救急車を呼ぶことなどもする。かなり意識がはっきりしていても、素人判断はできないと思ったことがある。4年前、2階閲覧室で利用者が倒れられた。意識ははっきりしていて、自分で歩いて救急車に乗られたが、一週間程のうちに死亡されたとご家族の方から連絡をいただいた。

盗難事件があり、現行犯とおぼしき人物を呼んで110番通報した。警察官が事情聴取の時、持ち物の中から七つ道具が出てきて連行ということになった。

よく思い出話にでるKさん。恰幅がよく堂々とした体格は、いかにも強そうであった。Kさんは、上半身ほとんどはだから来館した。そのことがまずトラブルの原因で、急いで注意書きに、はだからでの入館は禁止の文字を入れなければならない。席には座らず、1階カウンターの端に英字新聞などを広げメモ書きをする。おそらく政治面か社会面かと思うが、記事を読んでいくうちに興奮してきて大声を出すなどで、何度も注意するということがたびたびあった。非常に知識が豊富で、よく弁がたった。守衛等との言い争いや、世相に対する演説に閲覧室の利用者から拍手があったりした時は、苦笑せざるをえなかった。守衛もトラブルの最中、制帽を飛ばされたり、ネクタイを引っ張られ、首を絞められたり必死で「Kさんにはかなわん」と課内で話していた。そのKさんがここ10年ばかり姿を見せない。どうしているのだろう？まもなく、22年間の夕陽丘図書館の歴史も幕を閉じようとしているのに……。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」のたとえどおり、思い出とは、人間とは不思議なものである。

夕陽丘図書館は4月1日から特許資料情報センターに移管されるが、図書館の建物があるかぎり、いや、将来建物が取り壊されても、我々の心の中に永遠にそびえ立っていることだろう。

(管理課)

## 大阪府立中央図書館

— 平成8年5月10日オープン —

〒577 東大阪市荒本北57-3番地

TEL 06-745-0170

交 通：近鉄東大阪線「荒本」駅下車  
西北へ徒歩約5分



生涯学習、高度情報化時代にふさわしい総合的な図書館サービスを提供するため、東大阪新都心に世界都市大阪の文化を象徴し、時代のモニュメントになりうる「大阪府立中央図書館」を平成8年5月10日に開館します。